



〒975-0031

福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地

TEL:(0244)26-1315

FAX(0244)26-1318

E-mail:sousou.kyouiku@pref.fukushima.lg.jp



令和7年11月11日（火）実施 文化財パトロール（2日目）

- ・旧修験日光院所蔵修験資料・海老浜のマルバシャリンバイ自生地
- ・鹿島御子神社の大ケヤキ

○ねらい

文化財の管理状況等を把握し、文化財の保護に関する指導及び助言をし、文化財の保護に努める。

○参加者

相双地区文化財保護指導員1名、南相馬市教育委員会文化財課職員2名、教育事務所社会教育主事1名

【今回使用した写真は全て相双教育事務所のデジタルカメラで撮影したものです】

旧修験日光院所蔵修験資料（南相馬市鹿島区）



真言宗密教系の出羽三山を本山とする、貴重な修験資料が指定されています。代表的な資料として、相馬昌胤公が寄進した、火伏せ資料の、絹本着色「秋葉三尺坊画像」などが伝えられています。建造物としては、護摩祈祷を行った羽黒堂が貴重です。明治期の廃仏毀釈の影響は大きく、貴重な仏像の移動や損壊などの跡を知ることもできます。ここにも震災の影響は大きく、仏像や建造物への被害の跡が今でもたくさん残されています。貴重な資料や文化財の保存、修繕はすぐにでも進めなければなりませんが、県内各地で被害を被った文化財は数知れず、なかなか進まないのも現状です。今回の訪問では、貴重な文化財をギリギリのところで守ってくださっている多くの方がいることも、お伝えしていかなければならぬと感じました。（⇨の写真は、羽黒堂の外観です）

海老浜のマルバシャリンバイ自生地（南相馬市鹿島区）

マルバシャリンバイは、本州中部以南に自生する常緑灌木です。5月頃から白い小さな花をつけ、黒褐色の実を沢山つけます。鹿島区は群落をつくり自生する北限で、浜通り地方が暖地系と北方系の植物の移行地帯であることを示す貴重な植物です。パトロール当日は11月ということで、花は無く、褐色の実がたくさんついていました。海老浜は津波で流されてしまった場所ですが、マルバシャリンバイはその強い生命力で、再び自生の範囲を広げてきました。5年前の調査時よりも樹高は高くなり、震災前の姿に少しずつですが近づいてきています。市有地などの防波堤もあるので、見学は気を付けてください。



鹿島御子神社の大ケヤキ（南相馬市鹿島区）



大ケヤキの樹齢は900年とも1200年とも伝えられています。高さ33.5メートル、幹回り9.7メートルになる巨木です。この大ケヤキのある鹿島御子神社の創建は806年と古く、1200年以上の歴史と由緒ある神社です。鹿島区（旧鹿島町）の名前の由来にもなっています。

樹齢1000年以上という古木ですが、手入れが行き届いているので、元気な姿を今も見せてくれています。近くの県道を工事した時には工事現場まで根が伸びており、見えない部分での巨大さが分かりました。表面についたキノコを除去するなどの地道な保存作業が、町のシンボルを今に伝えております。

今回の調査を通して、相双地区が昔から山形や江戸といった他地区とのつながりを持っていたことや、津波にも負けない自然の力強さを感じることができました。歴史や文化財から学ぶことはとても多いです。